

## 29年度 氷見市教育総合センターだより 第5報

## 「ひみっ子の夢と希望」きらめき推進事業

【12月14日実施】

演 題 「人間力を高めるためには」  
 <<講演会 開催>> 講 師 オリンピックメダリスト（柔道競技） 山本 洋祐 氏

本年の講演会は、2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることを踏まえ、元オリンピック選手（柔道競技）で日本体育大学教授である山本洋祐氏を招いて行われました。山本先生には、選手として、そして指導者として経験してこられたことを話していただきました。今回の開催は、平成27年7月から、氷見市と学校法人日本体育大学が「体育・スポーツ振興に関する協定」を結んでいることにより実現したものです。

山本先生は、中学や高校時代の経験から、「一人になったときの努力」や「自分で考えて練習に取り組むこと」について話されました。また、ソウルオリンピックの準決勝で敗れたことに触れ、「対戦相手の研究を怠った」「自分をコントロールできなかった」と振り返り、自己を知り、自己に打ち克つ大切さを語られました。そして、昨年のリオデジャネイロオリンピックについて、「人間力なくして競技力向上なし」という言葉のもと、人間性や精神力を鍛えてきたことについても話してくださいました。

中学2年生は、「14歳の挑戦」を体験し、社会の一員として、将来の自分の姿や生き方を考え始めています。この時期に、オリンピックメダリストである山本先生の生き方や考え方に触れたことで、生徒たちは、視野を広め、自分を振り返り、これからの目標や夢について改めて考えることができました。



## &lt;講師プロフィール&gt;

1986年 全日本選抜柔道体重別選手権大会 65kg級 優勝  
 (1988年まで連続優勝)  
 1987年 世界柔道選手権大会(ドイツ:エッセン) 65kg級 優勝  
 1988年 ソウルオリンピック柔道競技 65kg級 3位  
 2008年 北京オリンピック第1位指導者としてスポーツ功労者顕彰  
 2016年 リオデジャネイロオリンピック チームリーダー  
 現在 日本体育大学スポーツ文化学部 武道教育学科 教授

## 将来の自分の姿や生き方を考え始めた生徒たちの思いは・・・

## &lt;講演を聴いての生徒の作文より&gt; 一部抜粋

僕が所属しているハンドボール部は、全員が日々の練習を真剣に取り組んでいるとてもよいチームだと思います。そんなチームであっても、コーチや先生がいないときに精一杯努力できているのは自信がありません。心のどこかで楽しようという気持ちがあると思ったからです。もっと努力していきたいです。  
 (南部中学校)

自分で掲げた目標は、やる気を高めてくれる大切なものです。これからは、誰も見ていなくても、「自分が見ているのだ」という気持ちで、地道に努力を積み重ねていきたいです。そして自分の「人間力」を育てていき、これからの人生をより豊かなものにしていきたいと思いました。  
 (南部中学校)

ハンドボールの練習や試合で自分が失敗したときに、言い訳ばかりしていました。しかし、山本先生のお話を聞き、自分のこれまでの行動を深く見つめ直すことができました。これからは、失敗するのは自分が下手だからだと自分自身に言い聞かせ、その悔しさをバネに上達していきたいと思いました。  
 (北部中学校)

私は、技の練習は好きですが、トレーニングは嫌いで、手を抜いてしまうことがあります。また、筋トレ等の自主練習をすぐにやめてしまうこともありました。うまくいかないことを人の所為にしたときもありました。山本先生のお話を聞き、自分の弱さに打ち克って、努力していきたいと思いました。  
 (北部中学校)

＜講演を聴いての生徒の作文より＞ 一部抜粋

<p>僕は山本先生にイライラした時の対処法を質問しました。「イライラすることは大切で、自分を振り返り、もっともっと練習をがんばって上を目指せる」と言っておられました。今日の講演で教わったことをこれからの生活や部活動で生かしていきたいと思います。そして、上を目指したいと思います。 (西部中学校)</p>	<p>山本先生の講演を聞いて感じたことが三つあります。一つ目は「努力をすることの必要性」、二つ目は「自分のすることに責任をもつこと」、三つ目は「何をするにも目標を明確にして行うこと」です。私はこれらのことを心に留めて、勉強や部活動、日常生活の中で実践していきたいと思っています。 (西部中学校)</p>
<p>私は、「14歳の挑戦」で、「目的・目標をもつこと」「相手のことを考えて接すること」を学びました。山本先生のお話は、「14歳の挑戦」を通して考えたことと通じるものがありました。私の目標は、「自分の気持ちをコントロールして人として成長すること」です。この目標を忘れずに日々過ごしたいです。 (十三中学校)</p>	<p>スポーツの一流選手は、身体能力や技術が優れていると思っていましたが、それ以上に「人間力」が高いのだということが心に残りました。自分も、「人間力」を高めていけるように、人に優しく接しながら、一步一步、よい方向へ進んでいけるようにがんばりたいと思いました。 (十三中学校)</p>
<p>「最高の努力とは一人になったときに行う努力だ」という言葉が一番心に残りました。誰も見ていないときに、サボるか努力するかで確実に差がつくということです。また、負けを認めて、それを乗り越えていくことで、「人間力」が高まっていくと感じました。私も、努力を続けたいと思いました。 (西條中学校)</p>	<p>私は部活動の練習をしているとき、目標をしっかりともたずに行うことがあり、「こなすだけでは意味がない」と、よく注意されていました。山本先生は、「やらされるのではなく、自分で考えて行動すること」が大切だと言われました。練習の意味を考え、効果的な練習をしたいと思いました。 (西條中学校)</p>

11月13日 朝日丘小学校、11月14日 上庄小学校で行われた

幼保小接続 交流体験活動について紹介します

「小学校区わくわく・きときとカリキュラム」(接続期カリキュラム)の実践として、朝日丘小学校と、上庄小学校で幼保小接続交流体験活動が行われました。上庄小学校では、北海道教育大学 教授 阿部美穂子先生と上越教育大学 教授 瀬戸 健先生が参観され事後研修会が行われました。



朝日丘小学校では、8園から41名の園児が参加し、合同で仲よく活動しました。小学校生活への希望と見通しをもつことができるように、学習参観や給食体験もありました。また、来年度入学予定の園児の状況について、各園と小学校の先生方が情報交換をすることもできました。



＜自己紹介ゲーム＞

上庄小学校では、2園から17名の園児が参加し、1年生と一緒に国語科の授業体験や学校探検、1年生体験(ランドセルと帽子を身に付ける)などを行いました。全校児童と、ランチルームで給食体験も行い、小学校生活が楽しみになったようでした。



＜1年生体験＞

＜かもつれっしゃ＞



＜給食体験＞



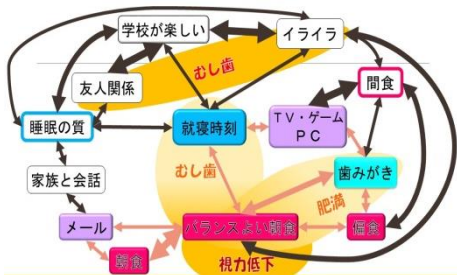
＜事後研修会＞

事後研修会では、交流体験活動を行うことで、園では「安心と楽しみ」が増え、学校では「児童の育ち」につながるのではないかと話し合われました。講師の先生方からは、交流体験活動を教材化し、教育課程に位置付けて実践することで負担感が減り、日常的な交流ができるようになるのと助言をいただきました。

11月17日 西部中学校で行われた

### 中学校区 小中連携合同研修会について紹介します

西部中学校区（西部中、明和小、速川小、久目小）の教職員が一堂に会した研修会が、西部中学校を会場として開催されました。

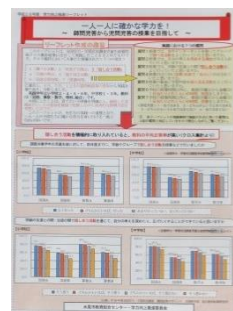


始めに、西部中学校区養護教諭部会4名による発表「小中連携で進める児童生徒の健康づくり」がありました。西部中学校区の児童生徒189名の①定期健康診断結果の比較と分析、②とやまゲンキッズ作戦結果の比較と分析、③とやまゲンキッズ作戦の相関関係の分析の3点から西部中学校区の児童生徒の健康課題を共有し、連携して健康づくりを推進しようとする取組の発表でした。過去数年間の経年比較データが示されていて、9年間を見通した系統的な保健指導が重要であることを共通理解することができました。

<とやまゲンキッズ作戦の相関関係>



その後、教育総合センター教育相談指導員の山崎外美雄先生による講演「小中連携による学力向上の取組について」では、「主体的・対話的で深い学び」を目指して取り組まれた小中の先生方の授業実践や、全国学力・学習状況調査報告書のクロス集計を生かした「自分の授業の振り返りチェック表」の紹介がありました。自己評価能力と根気強さを育てる往復計算の実技演習もあり、熱のこもった中にも温かい雰囲気が漂う研修会でした。



H26リーフレット

「一人一人に確かな学力を」

### 第2回 英語教育研修会

【11月28日実施】

演題 「新学習指導要領 外国語活動 外国語科について」  
講師 西部教育事務所 指導主事 豊原正貴先生

新学習指導要領の下での外国語活動、外国語科の完全実施と移行措置に備えるため、豊原指導主事より、「新学習指導要領及び移行期間における新教材、小中連携、カリキュラムマネジメント」の3つの視点から丁寧な説明を受けました。この研修会で小学校教務主任や中学校英語教員等28名の参加者が、これから想定される課題について共通理解をしました。

本市では移行期間において、3・4年生で35時間、5・6年生で70時間の外国語活動を実施します。現在、市英語教育推進委員会で移行期間中の年間指導計画及び単元計画を作成しており、3学期末の配布を目指しています。



(参加者の声)

- ・新学習指導要領及び移行期間における新しい教材について具体的に分かりやすく教えていただき、大変参考になった。小学校と中学校の教員が教科書(教材)を持ち寄って話し合うこと、中学校教員が小学校で乗り入れ指導をすることなど、今以上に小中連携を深めていかなければならないと感じた。(小学校)
- ・先日中学校の英語の授業を見に行き大変勉強になった。今日改めて小中連携の必要性を感じたとともに、45分間でしっかり授業をしなければならぬと強く思った。(小学校)
- ・小学校の内容がずいぶん増え、それを踏まえた授業になるよう中学校で考え直さなければならぬと改めて感じた。また、外国語活動で小学校の担任の先生が困っていたら、英語指導の専門として提案をしたり、実際に授業したりすることが大切だと思った。(中学校)



## おすすめ 図書の紹介

今年度、教育総合センターで購入した図書の一部を紹介します。（この外の図書については、後日紹介します。）

<p>本書は哲学や心理学、とりわけ現象学と呼ばれる学問的観点から、育児の本質を問い直します。</p> <p><b>※子育ての哲学</b> ——主体的に生きる力を育む 山竹伸二著 筑摩書房発行</p>	<p>つながりを煽られる子どもたち 背景と心理メカニズムとは？</p> <p><b>※つながりを煽られる子どもたち</b> ネット依存といじめ問題を考える 土井隆義著 岩波書店発行</p>	<p>チームが機能するとは 「学習力」と「実行力」を高める 実践アプローチ</p> <p><b>※チームが機能するとは</b> ——ということか エイミー・c・エドモンド著 英治出版発行 「チームング」という概念をもとに、新時代のチームの作り方を描く。</p>	<p>世界のビジネスリーダーが実践する「学習する組織」のエッセンスを分かりやすく解説。</p> <p><b>※「学習する組織」入門</b> 自分・チーム・会社が変わる 持続的成長の技術と実践 小田理一郎著 英治出版発行</p>	<p>チックとトゥレット症候群がよくわかる本 星加明徳著 講談社発行</p> <p>チックは育て方やしつけの問題ではありません！原因、対応法、治療について徹底解説！</p>
<p>伝説の教師 鹿嶋真弓 「明日に教室」発！</p> <p>互いに認め合い高め合う学級づくり 糸井 登・池田 修・鹿嶋真弓著 学事出版発行</p> <p>エンカウンターの手法を生かした鹿嶋先生の、どの子も承認される学級づくりとその実践の背景。</p>	<p>「プロ教師」に学ぶ 真のアクティブ・ラーニング 「脳働」的な英語学習のすすめ 中嶋洋一著 開隆堂出版発行</p> <p>本書に登場するのは「脳働」的な授業作りのプロばかり。知りたかった秘訣が学べる名著。</p>	<p>スマホやネットが苦手でも 指導で迷わない！ スマホ時代に対応する生徒指導・教育相談 竹内和雄著 ほんの森出版発行</p> <p>日常のトラブルからいじめや不登校にまで、スマホやネットが関連してきています。</p>	<p>カリキュラム・マネジメント入門 「深い学び」の授業デザイン。 学びをつなぐ7つのミッション。 田村 学著 東洋館出版社発行</p> <p>子供の姿や地域の実情を踏まえ、教育目標の実現を目指し、教育課程を編成・実施・評価し改善する。それがカリマネのミッション！</p>	

★ ※は、「第1回教育セミナー」において愛媛大学教授平松義樹先生が紹介された本です。

「小学校『新学習指導要領』（解説付き）新旧対照本」「授業が変わる！新学習指導要領ハンドブック（小学校編）」「授業が変わる！新学習指導要領ハンドブック（中学校国語編）」（この外、中学校社会編、中学校数学編、中学校理科編、中学校英語編、中学校保健体育編があります）  
★是非、ご活用ください。

## お知らせ

### 平成29年度 教育論文・教育実践記録募集について

日頃の地道な教育実践に基づいた自主的な研修を奨励し、顕彰するとともに教員相互の資質向上を願って、今年度も皆さんの教育論文・教育実践記録を募集します。奮って応募ください。

#### （募集要項）

- 規格
    - ・ A4判サイズ、本文12ページ以内
    - ・ 字数は40字×40行とし、写真、図、表などを本文に挿入する場合も枠内におさめる
    - ・ 提出は2部（閉じたもの、閉じてないもの各1部）、概要（A4判1枚）2部
  - 応募締切 平成30年1月9日（火）17:00まで
  - 提出先 教育総合センター
- ※ 詳細は、第4回 小・中学校長会議資料をご覧ください。

